



Title	2021年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2022, 80, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89269
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2021 年度 意匠学会作品賞 選考結果報告

学会賞選考委員会
委員長 大森正夫

受賞作品

工藤真生, 伊原久裕, 池田美奈子

「中村哲医師メモリアル・アーカイブのグラフィックデザイン」

授賞理由

本作品は、アフガニスタンとパキスタンにおいて医療・人道支援に尽力した医師・中村哲氏の志を次世代に伝える施設として九州大学中央図書館内に設置されたメモリアル・アーカイブのために制作されたグラフィックデザインである。

該当作品は、(1)メモリアル・アーカイブへの入り口に設置されたガラススクリーンでのグラフィック、(2)展示室内の円柱に貼り付けた年表でのレイアウトデザイン、(3)リーフレットの3点である。

ガラススクリーンでは、学生たちによる読書会から展示する言葉を抽出した上で、中村哲氏が見た景色へのタッチポイントを設置するなど、学生との距離感を縮めるための工夫がなされている。円柱での年表では、中村医師の生誕から死までの出来事を旋回しながら辿る構成をとり、リーフレットでは出来事の場所と時期を紐づけるデザインに工夫がなされている。また、位置サインには癩病患者用サンダルの写真を使うなど、展示会場全体に中村哲氏の生きた世界が醸せている。

本作品は、中村哲氏の活動業績を次世代へ伝える貴重な常設展示空間でのグラフィックを、斬新なビジュアル表現や展示ディスプレイの造形性に寄ることなく、鑑賞者の視点や思いに寄り添い、異国での活動拠点への感情移入や苦難の足跡を辿り易くするようなデザインや見せ方への工夫に気が配られている。

時事性に富みメッセージ性が高い上に注目度の高い複雑な課題に対し、堅実かつ冷静な表現技法で対応した会員のデザイン力を評価するとともに、社会的に意義あるメモリアル・アーカイブ活動の一助になることを期待し、意匠学会作品賞に相応しい作品として高く評価した。

選考経緯

本作品賞は2021年度大会においてオンライン上にてパネル発表された作品が対象である。選考は、学会賞選考委員である川島洋一委員と佐藤博一委員が発表作品に関与するとの理由により辞退されたことから、今井美樹委員、滝口洋子委員、益岡了委員、大森正夫委員（委員長）に、オブザーバーとしてパネル発表の司会を担当された塚田章副会長を交え、オンラインにて審議した。

オンライン大会によって、実物パネルでの発表が不可能なため、パネル発表はYouTube上での動画配信という形式に変更し、その動画発表に加えたオンライン上にてパネル発表は初めてのことであった。この動画の制作そのものは審査対象にしない旨の事前確認はあったが、現物を確認できない作品の状況を補うに足る動画制作であった。それぞれの発表動画の完成度は高く、発表前に確認できるメリットも含め審査には役立つものであった。

審査にあたっては、今年度のパネル発表は4点と少数であったので、個々の作品についての評価を各委員が順次述べた上で、それぞれの作品評について意見交換を行い、候補作品を選出した。

候補作としては、工藤真生氏他のグラフィックデザイン作品と地域資源の新たな発信方法として一人で脚本・撮影・編集を行った高橋紀子氏の映像作品「Missing」の2作品が挙がり、さまざまな視点からの審議を重ねた。

高橋氏の作品については、取り組みが高く評価されたが、制作目的である地域資源の説明が曖昧で分かりにくいなど、脚本や映像表現などにおける課題が拭えず、発表作品が修士制作であることから今後への発展的展開を期待することになった。工藤氏他の作品については、作品と展示の持つ安定感から上記の評価を得て、選出された。

